



(右上) 対面式のキッチンとダイニングはひと続きの空間にまとめられた。「食卓の家族とコミュニケーションを取りながら食事の支度やあと片付けができるのがうれしいですね」(妻)。天板からの立ち上がり部は、作業する手元や背後のキッチン家電の置き場をさりげなく隠している (右下) II 列型のキッチンの脇には食器棚と家事机のスペースも用意された (上) リビングでくつろぐ家族。ダイニングとの間にはオリジナルのテレビボードが配置され、空間の間仕切りとしても機能している

**明るい雰囲気
暮らしやすさ
すっきりとしたデザイン**

敷地の中にすっと立ち上がった白壁の家。片流れの屋根を持つそのフォルムは、デッキテラスやバルコニーの窪みをさりげないアクセントとしつつ、シンプルにまとめられている。

かわいらしささえ漂う、その建物に住むのは、I さん一家。今年3 歳になる長男は、家の内外を興

味のおもむくまま、飽きもせずに歩き回る。

1 階は奥に対面式のキッチンのあるワンルームのLDK と和室。2 階は寝室、子供室に洗面室・浴室を組み合わせたプライベートフロアとなった。

室内の壁と天井はチャフウォール。ホタテの貝殻やもみ殻を原料とした自然塗料だ。

床には、上品な風合いを持つカバ桜の無垢板が張られた。カウンターや棚も白木の集成材で造作さ

れ、開口部の枠材も白く塗装された。室内には、自然光が明るく広がる。

設計・施工を手掛けたのは篠田工務店。営業・設計・現場監督に至るまでほとんどのスタッフが女性で、きめの細かい対応を行う一方、一級建築士の篠田佳一社長がすべての施工現場に立ち会い、目を行き届かせている。

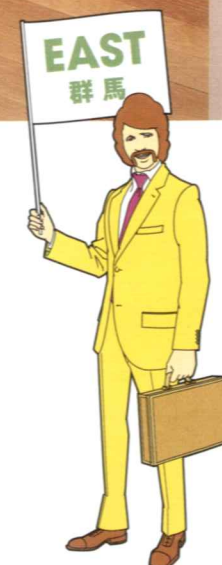
すっきりとしたデザインに漂うやわらかな風合いは、若い家族をやさしく包み込んでいくようだ。



篠田
工務店

EAST 02

子供は幼稚園、小学校とぐんぐん成長していき、日常生活さえ忘れがたい日々になる。わが家の物語をきちんと紡いでいきたい。そんな夫妻の思いをかなえることのできる、シンプルモダンの家ができた



**清潔感あふれる白壁の室内空間に
木の質感がやわらかな温もりを添える。
家族を包み込むシンプルモダンの家**

群馬・前橋市 I さんの家
●家族構成／夫32歳 妻31歳 長男2歳 ●本体工事費／2300万円

設計・施工：篠田工務店
代表：篠田佳一
TEL：371-0804
群馬県前橋市六供町711
TEL：027-225-0510
年間建築軒数：12軒
主な建築工法：木造軸組工法
建築地域：群馬県内
設立：1910年

敷地面積：238.09㎡(72.15坪)
床面積：128.75㎡(39.01坪)
1階：65.38㎡(19.81坪)
2階：63.37㎡(19.20坪)
用途地域：第1種住居地域
建築ぺい率：60%
容積率：160%
構造：木造軸組工法
本体工事費計：2300万円
3.3㎡単価：58.9万円
竣工：2009年3月

Material
部仕上げ
屋根：ガルバリウム鋼板平葺き
外壁：漆喰塗り
部仕上げ
2階
床：カバ桧無垢板張り
天井：チャフウォール

struments
厨房機器：ミカド
衛生機器：INAX

写真：後藤徹雄
イラスト：渡辺圭彦

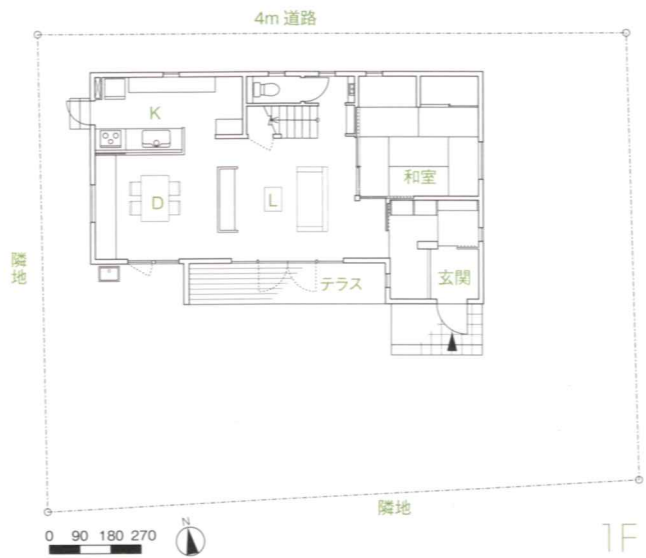
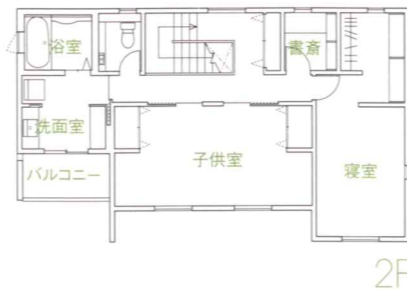
(右)書斎では、本棚の一部にデスクの天板を組み込んで、机上のスペースを広く確保
(左上)子供室には出入り口を2つ用意し、将来分けることもできるようにした (左下)1階のLDKを広くするため、水回りは2階にまとめた



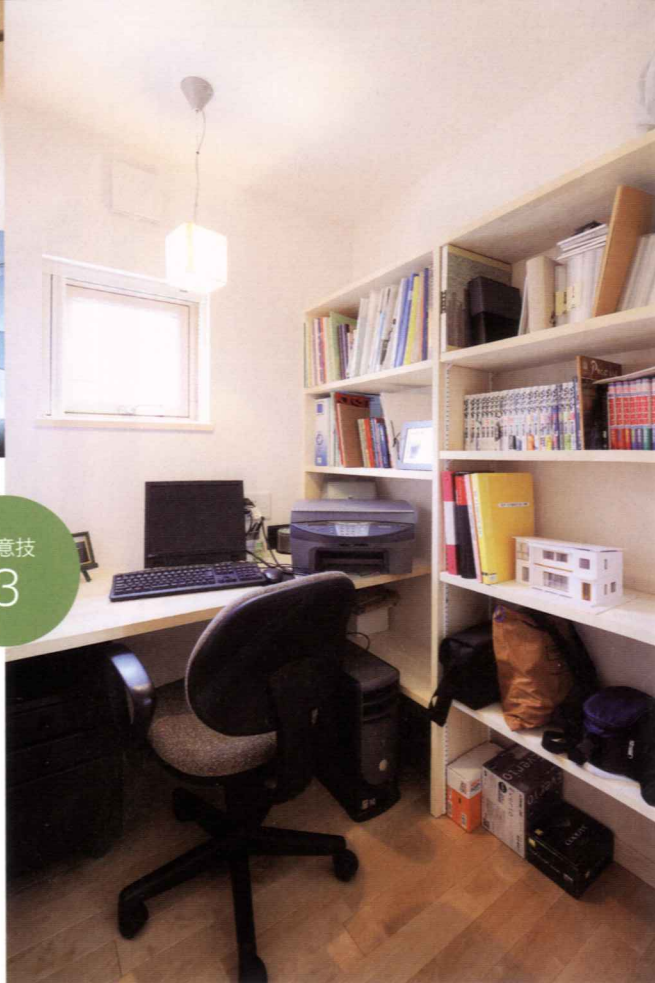
造作

独自の施工により、空間を効率よく使い切り、機能性を上げる

きちんと計画されているように見える図面でも、現場で実際に施工してみると、寸法や施工方法において若干の調整が必要になる場合がある。篠田工務店では、各現場に篠田さんが顔を出すので、その場で判断を下して造作に手を入れることが可能だ。「お客さまにしてみれば、図面だけで使い勝手をイメージするのは難しいですね。現場に立ってみて初めて気がつくことも多いはず。当社のプランでは、収納や水回りなどオリジナルの造作部分が多いので、既製品を使う場合よりも調整がしやすいんです」(篠田さん)。



得意技
3



得意技
1

標準仕様

内外とも名工の技による左官壁。無垢材と合わせ、健康的な家に

篠田工務店では、漆喰をはじめとする左官壁が標準仕様となっている。漆喰は石灰にスサやのりなどを混ぜたもの。耐火性・耐久性が高い自然の塗装材だ。「健康への負担が少ないうえ、環境に負荷を与えないという点で、当社の家づくりのコンセプト「健康・安心・安全」に合致した素材だと思います」(篠田さん)。その施工を一手に引き受けるのは、「現代の名工」として表彰されたこともある長谷川哲義さん率いる長谷川左官工業。美しい仕上がりが建物の魅力を引き立てている。

(右)1邸の内壁はチャフウォール。漆喰よりも薄く仕上がるため、壁面の角や隅部にシャープな印象を持たせられる (左上)片流れの屋根でシンプルなフォルムの外観デザイン。外回りの外構はこれから時間をかけて整えていく予定だ (右上)リビングの外にはウッドデッキのテラスを設置し、外への広がりを持たせた



得意技
2

動線

室内を真っすぐにつなぐ通路で家事をスムーズにこなす

設計の基本となるのは、風景・風土の中に違和感なくおさまる、奇をてらわないベーシック&ナチュラルのスタイル。子育て世代のためには、家事をスムーズにこなせるシンプルな動線計画も提案する。1邸では、キッチンとダイニングを一体にし、玄関からも一直線の通路でダイレクトに接続。2階の洗濯機を置いた洗面室の横には物干し場となるバルコニーを配置した。「無駄なく効率よく動くことができます」と妻も喜んでいる。



(右)玄関からリビングを通して階段へ。家族がお互いに顔を合わせやすいように計画された (左)奥にあるキッチン&ダイニングへの動線は真っすぐに確保された。途中には階段下収納も用意された



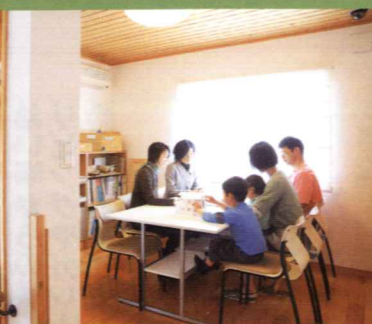
(右)階段は2階のプライベートエリアと1階のパブリックエリアを結ぶ動線に。子供の遊び場にもなっている。その右手には階段下のデッドスペースを利用してトイレが設けられた (左)玄関にはシューズクロゼットを設けた。玄関ホール側にも戸があり、土間に下りなくてもモノを出し入れできる

頼りになる工務店はこんな会社!

自然素材を使った健康・安全・安心の家づくりをしています



篠田工務店の手掛ける住宅のブランド名は「i・e・s・t・o・r・y」。家は、家族の夢をカタチに表すものです。だから、家づくりに関わるプロセス一つひとつの物語を大切にしたいし、お客さま一人ひとりの物語の舞台となる家とともにつくり上げていきたい」という篠田さんの思いが込められている。目指しているのは、耐久性・安全性・快適性・デザイン性に優れ、バランスの取れた住宅だ。漆喰、無垢材をはじめとする自然素材が標準仕様。断熱・気密性を保つため、木製トリプルガラスサッシを採用。室内をまんべんなく暖め、結露を発生しにくくする蓄熱式床下暖房機を標準装備に。「3世代にわたって愛される飽きのこないデザインを追求します」(篠田さん)。



このモデルハウスで実際に打ち合わせをしている様子。施主の要望や標準仕様のサンプルなどを手元に置いて、自分の家めながら、プラン内容を検討することができる